

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

| | |
|-------------|--|
| 1 審議会名 | 上田市公立大学法人評価委員会 (第3回) |
| 2 日時 | 令和4年8月2日 午前9時30分から午前10時40分まで |
| 3 会場 | 上田市役所本庁舎 303会議室 (web会議併用) |
| 4 出席者 | 田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員 |
| 5 市側出席者 | 大矢政策企画部長、北沢学園都市推進室長、堀内大学改革担当参事、中山大学改革担当政策幹、堀内学園都市推進担当係長、倉澤主査 |
| 6 公開・非公開 | 公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開 理由：市の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるため。 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 0人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和4年 8月2日 |

協 議 事 項 等

| |
|---|
| 1 開会 |
| 2 議事 |
| (1) 公立大学法人長野大学 令和3年度業務実績評価書の審議【非公開】 |
| (2) 第2期中期計画(案)について |
| (委員) 第8 その他業務 社会的責任 SDGsについて、現時点で決まっていなくても良いが、方向性としてはSDGsの17のゴールのうちのどれかを決めて目指すのか。それとも全体的にやりますということなのか。 |
| (事務局) SDGsの意図は、全体的なゴールをイメージして記載した。大学で、中期計画でどう記載するかは、まだこれからの協議となる。目標としては、大学として、どこかSDGsに取り組んでももらいたいと記載した内容になる。 |
| (委員) 大学のスタンスによると思うが、第1期のなかでやってきて、SDGsのゴールと比較して、ある程度できているところと、弱いところがわかると思う。そこに絞るということも良いのではないか。全部をやろうとすると、何もやらないみたいになってしまうことが多いため、決めた方が良くと思う。 |
| (委員) 地域づくり総合センターの位置関係を前面に押し出しても良いのではないか。大学が外とのコンタクトの重要なポイントの位置関係にあると認識している。業務実績評価の中でも記載しているため、中期目標にしっかりと位置づけを書いていただいたうえで、運用して頂きたい。 |
| (事務局) 地域づくり総合センターについては、大学で改革していくと聞いている。中期目標か、中期計画で記載していきたい。目的には、地域貢献・外部連携の拠点・組織として、全面に出せるよう、大学と協議したい。 |
| (委員) 民間企業や外にいる人たちに対して、大学に対して、どこにアクセスして良いのか。窓口をしっかりと明確に打ち出すことは重要。それがあれば、とりあえずそこに行けば良いなどとなる。このセンターは大きな位置づけになってほしい。もし、目標というレベルで入れてもらえるのであれば、嬉しい。 |

(委員長) 大学版のワンストップ窓口のようなイメージ

(委員) 中期目標の国際化について、「グローバル社会に求められる人材を育成するため、教育研究環境の充実を図る。」とある。

これを見ていて、具体的な案がなく、お題目みたいな気がする。講師とか、ネイティブの方を入れたり、もっと英語教育に力を入れないと、グローバル社会にそもそも出る土台がないのではないか。

第5の迅速な意思決定と実行力と多様性のある戦略的な組織運営を行うとあるが、多様性ではなく、ジェンダーバランスと具体的に入れたらどうか。

「積極的な情報発信に関する目標 大学のブランドイメージの向上を図るため、」とあるが、私見になるが、ブランドイメージの向上というよりも、革新的な何かがないと、これは無理ではないか。言い方を変える必要が無いか。

(委員長) 3番目の議論は色々あると思う。私見ですが、名前を変えてしまえば良いと考えている。学部再編の時がひとつのタイミングではないか。逆にそのタイミングを逃すと、もう二度と名前を変えることはない。

(委員) 環境ツーリズム学部ではなく、経済学部というのは如何でしょうか。

(事務局) その名称については、学部再編には新しい理工系学部だけではなく、環境ツーリズム学部と企業情報学部の統合学部をつくる話もある。その際に学部名をできるだけ分かりやすく、できればと思っている。

(委員) 次の中期目標期間で、一番大きな事とは何かと考えると、理工系学部設置して、淡水生物学研究所を活用しながら、長野大学として、新しく発展するためのチャレンジをすることだと思う。そうした時に、新学部の設置や淡水生物学研究所などについて、市も積極的にコミットするような大事業なのではないかと感じる。そう思ったときに、基本組織の中で「またこの期間内に…検討し、準備を行う」としか書かれていない。

その下に新学部の話も書いてあるが、今、2025年開設に向けて進んでいる訳で、市からも理工系学部をつくって、淡水生物学研究所を積極的に活用して、長野大学を大きく発展させてほしいみたいなものを中期目標にかけると思う。市として、大きな判断が必要かもしれないが、そういったことを施行すべきではないかと思う。

大学院に関する目標で、「柔軟な体制を構築や人々の安全・安心の実現に貢献する高度専門人材、さらにその下の教養教育では、主体性を持って行動できる人材を育成」という記載があるが、非常に抽象的。前の中期目標の方がまだ理解しやすい表現となっていて、ここを変える意図や必要性を明らかにしてほしい。

現行の中期目標は、能力を養成するみたいなものがあって、新しい案は、だいたい人材を育成すると文面を変えている。変えていることが良いのか、どうか。議論が必要ではないか。

7ページの入学者受入方針で、必要に応じて入学者選抜を見直すを書いてあるが、必要に応じてというのは、中期目標に書く必要があるのか。必要に応じて変えるというのであれば、目標に書く必要もないのではないか。

8ページの研究水準の向上であれば、淡水生物学研究所の話であるとか、共同利用施設として発展させることが大きな課題と思いますので、目標に書いても良いのではないか。

9ページの地域貢献で、リカレント教育や生涯学習を積極的に支援することについて、こうといったことについて、内容があれば非常に良いと思う。

11ページの経費抑制に関する目標で、削減を抑制に変えているが、現実的な判断をされていると思う。そのうえで、市から交付される運営費交付金が税金で賄われていることを十分に認識するというのは、地方交付税で交付される金額があって、それをさらに上回るようなもの

であるようなメッセージが込められているのであれば、良いと思う。

国立大学も税金が投入されているわけで、この手の話を言う必要があるのか。言うからには、それなりの市からのコミットメントがあると思いたい。

大学運営の財務健全性という言葉も、当たり前と言えば当たり前で、特にメッセージがあるのか、ないのか、知りたいと思う。

(事務局) 教育研究上の基本組織については、ご指摘のとおり。修正したい。頂戴した意見をもとに、見直したい。委員の皆様意見に賜りたい。

(委員) 一点目の件については、本当に市がこの大学に対して、中期目標期間中にどうしたいのか。その意思が一番大事であり、ただの作文の問題にならないよう、本気でこの長野大学にどうして欲しいのか、そのためには市のコミットメントなり、財政投入も含めて、そういったことを検討し、中期目標が策定されるのが年末だと思しますので、予算の話とか市議会の議論があると思うが、是非、単なる作文の問題とならないよう、ご理解いただきたい。

(委員長) 倍率のことを考えれば、「必要に応じて」と言っている時期ではない。場合によっては、今年度の話かもしれないが、入学者選抜のことについては、理工系学部にも影響する。

ここに書くかも含めてですけれども、これはちゃんと考えないと、折角新しい学部をつくっても、志願者が集まらないことも想定できる。このまま前期、共通テストの利用だけで良いのかも含めて、議論が必要と思う。

資料2の4ページ第8の(2)も取り組みを推進するというのは、非常に消極的。せめて、積極的位に書いておかないと、今年度指摘をしたわけですから。今回、C評価となった項目とか、評価が下がったところに関連するような事項については、しっかり中期目標においてはどのように積極的に取り組むべきなのか、是非、大学と市で調整いただきたい。

(委員) 質問ですが、前文のところ、「自律的かつガバナンスを強化した大学運営を推進することにより」とあるが、この自律的というのは、どういうことをイメージしているのか。

ここは、大学がスタンスを持って考えるところかなと思ひまして、しっかりと話合われる必要がある。

(委員長) 新潟大学も自律と創生として、この自律を使っている。自らが主体的に律する、マネジメントするとか、そういったニュアンスで全学の理念で使っている。

(委員) 中期目標のドラフトをつくって、大学は大学で中期計画を考えて、その結果として、中期目標にもフィードバックがありうるような、相互コミュニケーションを取りながら、やっていくという流れで良いか。

(事務局) ご指摘のとおり。

(委員) 中期計画には、6年間の資金総額も記載されるのか。その資金規模と、その内容は、特に理工系学部や淡水生物学研究所についていうと、重要な部分があると思うので、そういったものと、資金をいくら出すかというのは上田市の差配が大きいですよね。

(事務局) 施設整備に限って言うと、長野大学の基金だけでは施設整備ができない。市としてどこまで出すのか、内部で現在検討を進めているところ。

(委員) そういった議論とセットで、中期目標と中期計画がきっちり決まってくるという理解で良いか。

(事務局) 良い。

(委員) 資金がどれだけ投入されるかによって、大きさが違ってくるはず。そういうこととセットで、しっかりと市と大学で連携してやっていただきたい。

(委員長) 理工系学部の設置もそうですし、環境ツーリズム学部と企業情報学部の統合もされますし、社会福祉も学部自体は変わらないかもしれませんが、定員も減るような方向になるかもしれない。まさに今の言葉で言うと長野大学を「リボーン」再生するということで、中期目標は非常に重要な位置づけですし、それと中期計画も車の両輪として、大変重要なものですから、我々も責任が重大かと思います。

3 その他

- ・今後の予定について 事務局から説明

4 閉会